



## 十和田市現代美術館 青森県

# 「人間と自然」をテーマに、先端的ながら親しみやすい作品を揃えた美術館。 館内だけでなく街全体でアートを楽しむ旅に出かけてみましょう。

## アートを通じ新しい体験を提供。 「まち」に開かれた現代美術館

チエジヨンファ「フラワー・ホース」 撮影・小山田邦哉  
官庁街通りは戦前、旧陸軍軍馬補充部があり、「駒街道」という愛称も。そんな十和田市の馬との関わりや未来の繁栄を表現して作られた作品。高さ5.5mの堂々たる体躯とカラフルな色彩が、白くミマルな美術館の外観と鮮やかなコントラストをなしている。



▶左／個々の展示空間を「アートのための家」として独立させた建物。右／大きなガラスの窓を持つ展示室では移ろう光をアートと共に楽しめる。



ソドホ《コース・アンド・エフェクト》 撮影・太田拓実



インゲス・イデー  
《ゴースト》《アンノウ・マス》

撮影・小山田邦哉  
アート広場の芝生にそびえる真っ白な彫刻。精密な立方体の建物と対比することで、浮遊するようなゴーストの存在感が際立つ。

ン・マス》のように美術館の前の広場にも収蔵作品が展示され、不思議な感覚を味わうことができます。  
**展示棟は基本的に一つの作品に対し**  
**作品に合わせて作られた**  
**展示室も一緒に楽しむ**

ロン・ミュエク  
《スタンディング・ウーマン》

高さ4m近くある女性像が見る者を圧倒する彫刻作品。移り変わる自然光や見る角度によって変化する表情を楽しめる。



百瀬文《Interpreter》  
2022年、紙にインクジェットプリント、サイズ可変

て一部屋ずつで、各作品に合わせて高さや広さを決めていきます。例えば、2021年に新しく収蔵された《建物Ⅰ》アノスアイレスは、鏡を使って作品の中に入り込む体験やその様子を他の鑑賞者が見るスペースについて作者のエルリッヒが慎重に調整を行いました。  
当美術館での人気作品《スタンディング・ウーマン》の場合は、高さ4m近い作品を展示室内のさまざまな角度から鑑賞することで、「彼女の表情が変わって見えた」という感想も多く聞かれるそうです。  
美術館という枠にとられずアートを楽しんでほしいという思いから、決まった順路はなく、巡り方は見る人の自由。エレベーターの中や、建物と建物の間の敷地にごっそり展示された作品もあり、探してみても本美術館の楽しみの一つ。  
まぶしい新緑が通りを彩る季節。街歩きとともに、アートを満喫する旅を楽しんではいかがでしょうか。

### 十和田市現代美術館

住所 青森県十和田市西二番町10-9  
電話 0176-20-1127 料金 大人1,800円  
開館 9:00~17:00 (入館は16:30まで)  
月休 (祝日の場合は翌日休)、年末年始  
交通 東北新幹線八戸駅からバス  
(十和田市現代美術館下車)で40分  
HP <https://towadaartcenter.com/>

本誌ご持参の方は  
観覧料1,800円→**1,700円**  
※ご入館の際、本誌をご提示ください。※企画展開催中の1,800円チケットのみに適用(常設展も鑑賞可能)。※2024年3月31日(日)まで。  
※他の割引との併用不可。

### お楽しみ周辺SPOT 新緑の奥入瀬溪流と十和田のソウルフード

十和田湖から流れる奥入瀬溪流は、ミシュラン・グリーンガイドで2つ星に選ばれた観光名所。地元の人もベストシーズンとすすめるのが5~7月の新緑の頃。みずみずしい木々の葉、木漏れ日に光る苔の美しさが堪能できます。おすすめグルメは、醤油ベースの甘辛いタレで牛バラ肉を焼いた「十和田バラ焼き」。市内40店以上で食べることができます。



奥入瀬溪流



十和田バラ焼き

◎「十和田湖観光交流センター ぶらっと」 TEL.0176-75-1531

約4000㎡の敷地内には、ガラスの廊下でつながれた大小さまざまなキューブ状の展示棟。展示室によっては道路に向かう面がほとんどガラス窓で、床もほぼ地面と同じ高さなので、アート作品と外の世界がつながっているような印象を受けます。  
エントランスを入つてすぐに出迎えてくれる「フラワー・ホース」など屋外展示作品も多く、さらには《ゴースト》《アンノウ

### 美術館と街が シームレスにつながって

《建物Ⅰ》アノスアイレス》撮影・小山田邦哉  
鑑賞者が作品の中に入ることで完成されるアート作品。鏡の効果により建物の表面で重力に逆らうようなポーズをとることができる。

